



PTA・親の会だより



合併号令和4年12月発行
香川県立香川東部養護学校

中国・四国地区特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会研究協議会 山口大会 報告 令和4年10月7日(金)

山口県立岩国総合支援学校を大会主管校とする、第33回中国・四国地区特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会研究協議会(山口大会)がオンライン会議システムで開催されました。学校紹介やアトラクションの他に、以下の3本の講演がありましたので、ご報告いたします。

講演① 講師:山口学芸大学 教授(山口大学 名誉教授) 松田 信夫 様

演題:「可能性を広げ、自分らしく生きるための支援・教育のあり方」

講演② 講師:THK株式会社山口工場 総務課 副課長 吉永 俊介 様

演題:「障害者雇用の実際」～障害者の自立と社会参加をめざして～

講演③ 講師:一般財団法人山口県手をつなぐ育成会 副会長 沖村 文子 様

演題:「あったらいいな から 地域で生きる を考える

20年のあゆみとこれから・・・」



<参加者の感想>

・学校紹介のビデオの中で、VR(バーチャルリアリティ)ゴーグルを使用して授業を行っている様子が紹介されていて、驚きました。作業学習でのオクラ栽培・収穫の場面でしたが、VR 体験をすることで、子ども達を感じたり経験したりすることができるのは、素敵だと思いました。

・PTA 防災部では、児童生徒が個人の非常用袋の中に、携帯型トイレを入れていると紹介されていました。普段は携帯型トイレを使うことはないのですが、使用する練習をしていないと、実際の場面で抵抗感がある子どもがいるのではないかと思います。

第10回手をつなぐ育成会中国・四国大会 広島大会 報告 令和4年10月23日(日)

広島会場での開催とリモート開催のハイブリッド方式で行われました。「一人一人の思いを『たいせつ』にした暮らしを考えよう！」という主題のもと、以下の3本の講演がありました。

【中央情勢報告】 一般社団法人手をつなぐ育成会連合会常務理事

又村 あおい氏

【基調講演】 「地域の中で安心して暮らせる生活を求めて」

社会福祉法人 若葉 総合施設長 副島 宏克氏

【特別講演】 「誰もが豊かに暮らせる共生社会とは」 厚生労働省元事務次官 村木 厚子氏

中でも、村木厚子氏の講演は、誤認逮捕をされた経験を交えてのお話で、「人は一夜にして、助ける側から助けられる存在になる」というエピソードが印象に残りました。

セミナーDVD 紹介

全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会(全知 P 連) 理解啓発事業
DVD セミナーについて

長引くコロナ禍の影響でPTA活動が思うように推進できない昨今の状況のため、全知 P 連が研修の一助となるように、研修用の DVD を企画作製しました。本校図書室のPTA・親の会資料コーナーに置いてありますので、ご自由にご覧ください。

DVD 内容:子どもの行動の受け止め方(大人の心構え編)約50分

子どものつまずきの背景理解(意味がわかれば関わりがひろがる)約45分

DVD セミナー講師:公認心理師・臨床発達心理士 川上康則氏



香川県特別支援学校 PTA 連絡協議会全体会
令和4年11月1日(火) 香川丸亀養護学校にて

四国学院大学教授野崎晃弘氏による講演がありましたので、報告いたします。

講演:「成長する我が子と共に家庭が向き合う地域生活と日常生活における取り組み

～生活者としての選択決定と QOL の意義～

地域で暮らすことを前提とした制度に変わってきた中で、失敗をしてもいいので、子どもが様々な経験をするのが将来に向けても重要で大切なことを、再確認させていただいた内容でした。

子どもが生活経験できることが1番重要で、子どもがする、やりたいという気持ちを育てる、色々なことをチャレンジさせてみる、やってみてできないのと、最初からできないからさせないということは違う、周りが手をかけすぎないことが大切で、できなくてもやっていると少しずつできることも増えてくる、この積み重ねが子どもの社会の中で生きるための選択肢を広げることになる。社会に慣れるには、長い時間が必要であり、子どものころからの練習が、後々大きくなる。地域や社会に出ていく機会が増えることに対して、外に出すことを怖がらず練習させておかないと、地域での生活が難しくなる。これらのことが大切なのは私も分かっていますが、子どもの年齢が上がり、身体も大きくなり、だんだんと無意識に減っていたような気がします。練習する時間は早くから多い方が良い理由として、大人より子どものすることは、周囲の目がやさしいのもあるし、必要になった時に準備をしておかないと無理なことが多いからです。そして、『家庭が適切に対応できているか』『家庭の基盤が重要』『家庭が考えること』の言葉が印象に残りました。

講演後、最近好きだったことを子どもが嫌がる、どう対処すればよいかという保護者の方の相談には、子どもの成長とともに好みも変化する。それを親がいかに感じ取れるか、正しく対処できるかということが、子どもの今後の経験値に差が出てくることになるという回答でした。

親も子どもの卒業後についての情報や知識を卒業前から準備しておく、様々なことを早くから取り組んで構築しておくことが大切と教えていただきました。子どもも親も共に成長していかなければならないと考えさせられた講演でした。



(高2 三谷)

創立45周年記念

未来へ はばたけ！ Let's smile 若竹祭！

創立45周年記念若竹祭ということで、これまでのPTA活動を紹介するパネル展示をしたり、親の会バザーでみくじバザーやリユース品譲渡会をしたりしました。



リユース品譲渡会では、次回実施日を聞かれることも多くあり、会場での保護者どうしのコミュニケーションで、スタッフもいろいろな情報をいただくことができました。リユース品譲渡会利用者、広報部の声を紹介します。

- ・これから使うものがいただけるのは本当にありがたい。学用品は高額で負担にもなるので、リユース品はとても助かる。
- ・意外とリユース品が少なく、もっと品やサイズが豊富にあればいいのに・・・と思った。
- ・多くの人の目に触れる場所で開催してもらえればと思った。
- ・子どもが小学部で、先々の中学部や高等部で使う標準服、体操服、作業服について情報を持っていない。「〇〇部制服」など表示があったら分かりやすいし、将来の情報をもって購入するか、リユース品を利用するかしたい。授業によっては頻度の高い服もあるので、選択のことを考えると入学時購入したものプラス足りないものをリユース品でいただくと非常に助かる。
- ・リユース品提供方法を知らなかったなので、リユース品として今後提供したい。



リユース品譲渡会は現在、年2回行っています(PTA総会後と若竹祭)。今後はリユース品の提供についてもより一層呼びかけを行い、次回へとつなげていきたいと思えます。

また、受付と駐車場誘導と校内警備のお手伝いをお願いしたところ、たくさんの保護者の方が協力をしてくださいました。雨が降る中でのご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。



仮装コーナーでは、子ども達が喜んでくれました♡♡♡